'75 秋休みツリーラン

― 渋峠 ― 藤原

10/9～10/10

コース　志賀草津高原ルート

長野原 P.M.1:00 —¥10 草津有料道路→ 草津 2:20 —¥20→ 白根山 4:20 4:45 —¥20→ 渋峠 5:20 [2172m]

→ 熊の湯 P.M.5:30 YH A.M.8:30 —¥20→ 上林 9:20 → 湯田中 9:40

長野原 → 湯田中は50km前後と思われる

まだ先輩達が行ったことがなく、標高が二〇〇〇米以上の峠へ行ってみたいとかねてから思い群馬県と長野県の境にあるこの渋峠に目をつけ今回実行したわけであります。しかしながらスタートからつまずき　まず朝寝坊をして予定の電車に乗り遅れ、しかもその後乗った電車が間違いであるのに気づき　何だかんだしているうちに、長野原に着いたのが午後〇時〇分、最初の予定では午前10時半には出発するつもりだったので大ポカロス　一時は断念しようかとも思ったが、悔いが残るのでとにかく走ることにした。まず宿を確保しようと熊ノ湯のユースに電話したところ、原則として電話予約はやっていないので、より道せずにち時までに来てくれとのこと。アーアこれから一三〇〇米くらい登るのに人事だと思ってと嘆い

いていてもしようがないので、「できるだけ努力してみます。」と言って電話を切り、大急ぎで自転車を組み立て、駅の立喰いそばで軽い昼食をとり、午後一時にやっと長野原をスタート。思えば、この「軽い昼食」が、後に私の行く手を大きくはばんだのであります。

まずは準備運動に草津有料道路を草津まで。全長九・五粁であるが七粁以上は登りで下りはほんのちょっぴり。景色もよくないし、つまらない道路だ。料金所のおじさんに「渋峠までどのくらいですか」と聞くと、十七粁ぐらいとのこと。草津温泉方面と白根山方面への分かれ道でちょっと休み、コーラを飲み、ボトルの水を補給して即出発。さあ登るぞ！と意気込むと、前方に見えるのは、急勾配の凸凹道、まさかこれがずっと続くのでは、とおびえながら登っていると間もなく道が良くなり有料道路入口に着いた。金二拾円也を払ってまずは白根山をめざしてスタート。路側に距離が出ているのでこれを目安にペダルをこぐ。天気は快晴、車も少なく順調なペースで登る。間もなく標高一五〇〇米の標識を過ぎ、硫化水素の臭いが鼻をついたと思うと殺生ケ原が見えてきた。草木は一本もなく地表のあちこちから蒸気が噴き出している。渋峠を境にして群馬県側は、大きな木がなく、ごつごつした岩肌と草原が大部分をしめる。その中に点在するまっかに紅葉した木（名前わからず）が印象的であった。殺生ケ原を過ぎたところで小休止。自転車をとめ、草の上に寝ころぶ。空には雲一つなく遠くに連なる山々もよく見える。しかしそれに

しても腹が減った。猛烈な空腹感だ。それもそのはず、他称大食いの小生が立食いそば一杯でここまで登ってきたのだから。おまけに寒い。太陽が照りつけても少しも暖くない。空腹と寒さに気づいたら急に弱気になってきた。もう体もほとんど通らない。とにかく早く峠を登ってしまわなければならない。トレーナーを着、ヤッケを着て再び登り始めた。けれど腹が減ってどうにも足に力が入らない。それに体の中はカッカしてるのに表面は汗一つ出ず変な感じだ。これから先は全く悲惨な戦いであった。一、二粁走っては自転車を止め、ゴロンと横になり、足をマッサージし、ボトルの水を一口飲み、ひざの屈伸をしてまた登る。この繰返しであった。飢えと寒さと疲労でもうだめかと思ったが、なおも小生にペダルをこがせたのは、「日が暮れたら死ぬ！」という言葉を読んだ人はオーバーな！と思うでしょうが本当にそう思ったのです。という恐怖感と、「白根山に行けば何か食物にありつける！」という期待であったのです。